

教科等研究会（中学校特別活動部会）

平成29年度 研究活動のまとめ

1 研究テーマ

ともに生きる力をはぐくむ特別活動のあり方 ～学級活動における「分かる・できる」「楽しい」授業をめざして～

2 研究経過

第1回			第2回			第3回			第4回		
期 日	人 数	場 所	期 日	場 所	生徒会 交流会 打ち合 わ せ	期 日	場 所	授業者	期 日	場 所	授業者
6月 8日	17名	御船中 学 校	7月 4日	矢部中 学 校		10月 3日	益 城 中 学 校	田 上 大 太 郎 教 諭	12月 8日	広安西 小 学 校	小 谷 由 貴 美 教 諭

3 研究の概要

(1) 研究の内容

① 主題設定の理由

教育をとりまく今日的課題の一つとして、社会や家庭の教育力の低下があげられる。子どもたちに基本的な生活習慣や態度が身についていない、他者との関わりが苦手である、自制心や規範意識に基本的な生活習慣や態度が身に付いていない、ことなどが指摘されている。また、少子高齢化・高度情報化等により、人間関係が希薄になり、社会性が薄れ、自己中心的で生命を軽視する青少年の問題行動も社会問題となっている。

特別活動は、集団による実際の生活や体験活動を通して、よりよい生活や人間関係を築く力、自主的、実践的な態度、望ましい集団活動の方法などを身に付けていく教育活動である。このことを踏まえて研究テーマを設定し、研究会で共通実践していくこととした。本年度のテーマは、「ともに生きる力をはぐくむ特別活動のあり方～学級活動における「分かる・できる」「楽しい」授業をめざして～」とした。それは、研究を通して、より質の高い集団を目指すことを実践していくという趣旨からである。そして、サブテーマも、日々の実践の中で、集団を育てることと生徒一人ひとりを育てることの両立があってこそ、特別活動の目標の達成に近づけることができる、と考え設定した。「生徒一人ひとりが輝く」場面を設定し、生徒個人と集団の力を付けていくことを目指して研究を進めることとした。

② 主題の分析

(ア) メインテーマについて

「ともに生きる力」とは、望ましい集団活動を基盤とする特別活動においては、「ともに考え、ともに表現することによって、集団としての考えや表現を生み出す力」である。具体的には、学級の課題について、子ども同士がお互いの立場を尊重しながら、自分の考えを主張し話し合う中で、課題解決のための目標と具体的な手段・方法を集団決定し、協働して集団活動を創造していく中で培われていく「ともに生きる力」である。「ともに生きる力」を構成する主な能力は、課題発見力・話し合い力・人間関係構築力・問題解決力・規範意識・役割意識である。友達と共に意見を出し合いながら合意形成を図り、意義ある活動を生み出していく特別活動を通して、「ともに生きる」「分かる・できる」「楽しい」を追究していくことは、大変意義深いと考える。

(イ) サブテーマについて

学級活動における「分かる・できる」「楽しい」授業とは、以下のように捉え研究を進める。

サブテーマの分析	めざす児童の姿	研究の視点
学級会活動における「分かる」とは	①話し合いの目的や内容が分かること。 ②話し合いの方法（質問・意見の出し方）が分かること。	「分かる・できる」「楽しい」学級活動 ＜視覚化＞
学級活動（学級会）における「できる」とは・・・	学級活動の活動を通して適切な評価活動を行うことにより、自他のよさや達成感を実感し、「できる」という自覚を持つこと	○合意形成のプロセスを大切にする。 （板書の構造化） ○個人と全体の思考の可視化
学級活動（学級会）における「楽しい」とは・・・	①話し合いで支持的風土ができていて楽しい。 ②実践活動で一人ひとりのよさが発揮	＜焦点化・共有化＞ ○学級目標、提案理由を意識させる。

	できる話し合いだから楽しい。	○話し合う内容（話し合いの柱）、話し合う目的（提案理由）を明確にする。 ○全員参加型の工夫
--	----------------	--

※「分かる・できる」「楽しい」という一体化された表記から、両者は「分かる・できるから楽しい、楽しいから分かる・できる」という相互関係で研究を進める。

(2) 成果と課題 (○成果・●課題)

- 学級活動の時間に、毎時、個人思考、集団思考、集団決定の各場面設定を設定しており、全員が積極的に参加できる話し合い活動ができた。
- 進路実現に向けて、学級活動を計画的に行い、長期的な展望に立って実効性のある取り組みができています。
- 進路に対する悩みを共有し、解決に向けて取り組むことで、よりよい人間関係を築くことができ、「ともに生きる力をはぐくむ」ことへとつながった。
- 学級活動における「分かる・できる」の理解が不十分で、あいまいなままの実践になってしまった。評価計画を見直し、共通実践をしやすいものとしたい。

4 実践事例

(1) 授業の概要

生徒の実態	○生徒は全員進学を希望している。特に今学期に入ってから個々の目標に向かって学習に励む姿が多く見られるようになってきた。 ○「公務員になる」「看護師になる」などといった自らの夢に向かい、進路選択を行っている生徒もいるが、その一方で進学希望先は決まっても、進路に関して悩みや不安を抱えている生徒もいる。 ○課題や不安に対しての解決方法がわからない生徒や、解決策がわかっても実行に移せない生徒がいる。
本時の研究の視点	<計画> ○進路実現に向けて、クラスの友達と協力して、悩みや学習方法などを考えさせる。 ○進路に関する諸問題を出し合い、今後の学校生活で必要なことを考えさせ、お互いに協力し合いながら解決方法を導き出す。 ○個人思考の場と協働解決の場を設け、それぞれの悩みの解決方法を考え、練り上げさせる。 <活動> ○自らの進路について考え、自己実現に向けて前向きに取り組めるよう、計画を立てる。 ○進路に向けての不安・悩みを解決する方策を考え、自分に合った対策を立てる。 ○個人で考えたものを班で出し合い、課題を共有し、改善策を考える。 ○進路についての不安・悩みが多数あることを知り、多様な対策があることを理解する。 <振り返り> ○「受験は団体戦」の担任の呼びかけのもと、進路の目標実現のために級友と協力し、助け合いながら行動する。 ○学級や学校の生活の充実と向上に関わる問題に関心を持ち、今後の学校生活に活かす。
授業者自評	研究授業で学活の授業にあまり取り組んだことがなかったので、今回、授業をさせてもらってよかった。中学校に異動してきて3年目だが、未だに中学生はどのように関われば良いか難しいと思う。このような場で生徒の悩みが少しでも解決できればいいなと思っていた。 学習課題は3点に絞り、さらに班の中で1点に絞らせた。具体的な解決策については教師とのやりとりの中で見つけていった。めあてに対しては深い思考ができなかった場面も多かった所が反省点である。
協議の内容	<質疑応答> Q：進路関係・生徒指導面等で困っている生徒は？その生徒の活かし方は？

	A：夏休みの面談で「俺はどうしても就職する」としか言わずに怒った生徒がいた。そんな子の顔が上がるような授業ができればと思って授業をした。この1時間でできるとは思わないが、そう思いながら授業をした Q：黄色い短冊に書くことは何個でもよかったのか？絞るのなら、どのような基準で選ばせたかったのか？ A：意図は深く考えていない。ブレインストーミングの良さは色々な意見が出て、そこを否定しないことでさらに意見が出たり発展したりすること。ブレインストーミングの良さを活かし、何個でもよいこととした。「いいなあと思うもの」「なるほどと思うもの」「自分でもできそうだなあと思うもの」を基準にした。 Q：進路カレンダーを提示したことで期待する効果は？ A：なかなかこれからの見通しが持てずのんびりしている生徒も多く、進路に対する意識を向上させたかった。 Q：最後の「学習面」「生活面」と分けた意図は。 A：色々な意見が出たが、大きく学習と生活に分類される。基本的に学習面が大切だが、生活面のことも関連するということを実感させたくてあのように分けることにした。事前研でも同じ話題が出た。「(2) ア；不安や悩み」に寄っている感があったので、進路にこだわるためにこのような展開に変えた経緯があった。 〈全体討議〉 ・子どもたちにとって、3つの課題が本当に必要感があったのか。検討の余地がある。 ・グループ活動が活発だった。男女の仲が良く、クラスの雰囲気もよかった。 ・悩みや不安が3つに絞ってあったので考えやすかったが、もう少し具体的だとさらに考えやすい。 ・グループ発表で同じ意見をグルーピングできれば良かった。 ・同じ悩みを持つもので班を作れば、話し合いがさらに活性化するのでは。 ・進路カレンダーを一生懸命見ていた。切実感を感じた。 ・班で決めたテーマと自分自身の悩みとの違いがあった。班の作り方を工夫するとよいのでは。 ・話し合いの手順や見通しを持たせるとより具体的に解決策まで考えることができる。
まとめ 七滝中央小 大竹紳一郎 校長先生	・導入で掴みができることが大切。今日は全員が参加できていたことが素晴らしい。 ・悩みが3つ出たが、A・B・Cなど名前をつけて、自分の課題は何なのか、立場を明らかにして始めたい。今後考えてほしい。 ・付箋にはサインを書いてほしい。タイマーはスマホでなくてもいいのでは。 ・「受験は団体戦」というが、本当に団体戦だろうか。発表時期が違うので、不安や悩みが個々に違う。その状況を踏まえたクラスでの取り組みが必要ではないか。 ・夢の実現に向けて、また目の前の目標達成に向けて、「A したいことをあえてしない力」「B したくないことをあえてする力」が必要だと感じる。不安や悩みがあるのが普通である。完全解消することは難しいが、解消できる方向で鼓舞していくような教師の取り組みや持っていく方法が必要。 ・中学校の担任はとても大切。教科担任制だが、中学校は担任と学年部が大切。共有する時間が短いからこそ、しっかりとした準備・授業の取り組みが必ず生徒に伝わる。生徒が教師を好きになる。その思いに応えていく取り組みが必要。 ・マンダラートも使えるといい。付箋のメリット・デメリット、マンダラート、両方使えないか、など、やり方はたくさんある。見通しを持つことや話し合いを充実させることに活かしてほしい。

(2) 学習指導案

○ねらい

進路に関する悩みや不安を共有し、目標実現に向けて具体的な対策を意思決定することができる。

○展開

	学習内容・活動 ○予想される生徒の反応	指導上の留意点 ◆研究テーマとの関連	備考
導入 15分	1 進路に対しての悩みや不安を学級全体で共有する。 (学習面) ○学習の成果が出ない。 ○志望校に合格できるかどうか不安。 ○勉強に集中できない。 (生活面) ○イライラする。 ○朝早く起きることができない。 ○スマホを手放せない。	・前時で使用したワークシートからあらかじめ悩みや不安の傾向をつかんでおく。 ・悩み・不安一覧表を黒板に掲示することによりクラスメイトが抱えている悩みを全体で共有する。 ・悩み・不安一覧は学習面に関するものや生活面に関するものなどに分類して提示することで、生徒がその傾向をつかみやすくなる。	不安 悩み 短冊 ワークシート
展開 30分	2 悩みや不安の解決について具体的な対策を考える。 (1) 学習課題を確認する。 進路に関して、今かかえている悩みや不安の解決策を考えよう。 (2) 悩みの解決に向けて、何ができるのかグループで話し合い、解決策を付箋紙に記入し、班ごとにまとめる。 (学習面) ○自主学習ノートを1日3ページ続ける。 ○メリハリをつけて勉強する。 (生活面) ○ストレス発散のために運動をする。 ○6時に起きて、10時に寝る。 ○スマホを使う時間を決める。 (3) グループで出た意見を黒板に提示し、分類する。 (4) 自分に合った解決策を意思決定し、ワークシートに記入して発表する。  授業の様子 (5) 本時の活動を通して感じたことや考えたことを記入する。	・今後の学習展開とねらいをしっかりとつかませる。 ・ブレインストーミングを通し、多様な意見が出るようにする。 ・クラスメイトの悩み・不安に対しては、アドバイスを考えるつもりで取り組むようにする。 ・各自が考える解決策について意見交換を行うことで自己の悩み解決にもつながるようにする。 ◆クラスメイトと意見交換をしながら、具体的な対策を考えるようにする。 ・進路カレンダーを提示することにより、先を見通した対策を考えさせる。 ・黒板に掲示してある対策から、自分にできそうなものを選び、具現化するようにする。 ◆悩みや不安の解消のために、これからの自分に何ができるかについて考えるようにする。 進路に関する悩みや不安を理解し目標実現に向けて具体的な対策を見つけることができたか。 (観察、ワークシート) ・悩みや不安について前向きに関わろうとする意識が芽生えたかを振り返るきっかけとする。	付箋 紙 A3紙 マジックペン 掲示 短冊 進路 カレンダー ワークシート
まとめ 5分	3 教師の話を聴く。	・生徒に前向きな生活ができるよう喚起する。 ・悩みや不安は誰にでもあることで、助け合っていくことが重要であることを伝える。	